

第八回博多・菊丸独演会

古今亭菊丸

日時

令和元年

10月27日(日)

開場 13:00/開演13:30

場所

あじびホール

福岡市博多区下川端町 3-1
リバレインセンタービル
福岡アジア美術館 8 階

演題

二番煎じ ほか一席

戸銭

3,000円

席数

120席

古今亭菊丸

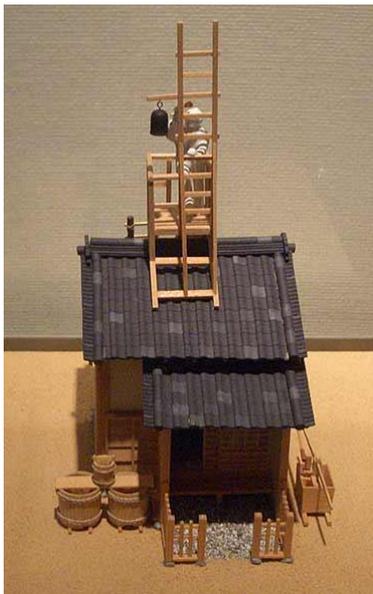
本名、占部正夫。昭和26(1951)年4月1日、広島県呉市で生まれる。父の仕事の関係で福岡市に転居し、三宅小学校を卒業、その後広島に戻る。1975年、24歳で2代目古今亭園菊に入門、前座名「菊助」。1976年、広島修道大学卒業。池袋演芸場にて「たらちね」で初高座。1980年に二つ目に昇進、「菊之助」に改名。1990年3月、真打に昇進。「菊丸」に改名。1987年にNHK新人演芸コンクール落語部門優秀賞受賞、2011年に「平成23年度第66回文化庁芸術祭賞大衆芸能部門・優秀賞」を受賞する。主な持ちネタは愛宕山 時そば ふぐ鍋 幫間腹 火事息子など。

博多・菊丸独演会実行委員会

問合せ先: 松本謙一 (090-2581-5100) 伏見史郎 (090-6421-9262)
Mail: hakatakikumaru@kaw.bbiq.jp

【二番煎じ】

火事は江戸の華。特に真冬は大火事が絶えないので、町内で自身番を置き、番小屋に番太郎がいて交替で夜回りしていました。しかし、酔っ払って寝てしまったり、寒いので夜回りをさぼったりすることが多かったので役人が見て回っていました。番小屋での役人と自身番とのやりとり……お楽しみに！



←番小屋

江戸各町の自身番に属した詰所。番屋とも。番小屋の屋根上に火の見が乗っています。長屋の入口にあって、この小屋の中で猪鍋や煎じ薬をやっていたのでしょう。こんな小さな小屋ですから、隠す場所もなく股下に熱い鍋を隠す羽目になってしまいました。

火の見には半鐘が付いています。番小屋の脇には水樽や竜吐水、ハシゴが置いてあります

二番煎じ＝漢方薬を一度煎じた後、さらに水を加え、薄めて煮出したものです。金気をきらい、土瓶などを用いました。

- CD頒布： 第1回～第7回の博多・菊丸独演会収録CDを頒布中（各回 1,500円）。
第8回予約受付。

- 演題： 第1回 「井戸の茶碗」「ふぐ鍋」
第2回 「浜野矩随」「片棒」
第3回 「子別れ」「時そば」
第4回 「寝床」「短命」
第5回 「火事息子」「ちりとてちん」
第6回 「甲府い～」「うどん屋」
第7回 「愛宕山」「天狗裁き」
※第8回 「二番煎じ」ほか一席
“予約受付中”

- 懇親会： 公演終了後、古今亭菊丸さんを囲んで懇親会を開催しています。飲みながら、食べながら菊丸さんと楽しくお話しませんか。会費は3,000円です。



あじびホール
ACCESS
福岡アジア美術館 8階
福岡市営地下鉄
中洲川端駅下車

※チケット、CD購入、懇親会参加ご希望の方は下記までご連絡ください

問合せ先：松本謙一 (090-2581-5100)、伏見史郎 (090-6421-9262)

Mail: hakatakikumaru@kaw.bbiq.jp

博多・菊丸独演会実行委員会